

第25回 飯田女子短期大学学内研究集談会

Part 1 口演・報告

日時：令和3年2月10日(水) 9:00-12:00 会場：飯田女子短期大学teams会議

プログラム

- 9:00 開会の辞および挨拶
- 9:05 口演・FD：養護教諭養成機関による育成指標の活用
～セルフチェックシートの作成とその活用～……………○澤田有香・安富和子
- 9:25 口演：マーシャル諸島での1年9か月……………富口由紀子
- 9:45 口演・FD：老年看護学・学内実習における高齢者疑似体験の学習効果（第1報）
……………○矢澤玲子・鈴木真由美・武分祥子
- 10:05 休憩（10分）
- 10:15 口演：地域食材を利用した「あん」製品の開発
……………○千 裕美・友竹浩之・片山直幸・藤野真弘・小西 進・内山文世
- 10:35 口演：凍り豆腐および雑穀粉末の脂肪蓄積抑制作用の検証
……………○友竹浩之・竹村春香・片山直幸・高木一代・石黒貴寛・近藤桂太郎
- 10:55 口演・FD・SD：キャンパスライフに対するアンケート結果（令和2年度）
……………○稲吉政岳・林 正樹・渡邊千春・桑原真裕子・竹村 香
・新井奈津美・小池美津貴・武分祥子・三浦弥生
- 11:15 閉会の辞・アンケート記入

Part 2 展 示

日時：令和3年1月12日(火)～2月10日(水) 会場：飯田女子短期大学本館廊下掲示板

展覧会ポスター、DM、会場写真

令和2年度 展覧会報告……………田中洋江

研究ポスター

保育所看護職の必要性和役割に関する研究

—A県内の保育所施設長に対する調査結果の検討—……………神澤絢子

Experience of Fathers of Children with Schizophrenia: Father's coping skills and roles

……………○岩崎みすず・水野恵理子

口 演

老年看護学・学内実習における高齢者疑似体験の学習効果 (第1報)

矢澤 玲子・鈴木真由美・武分 祥子

序 論

令和2年度、老年看護学実習はCOVID-19の感染拡大防止のため臨地実習を学内実習に変更した。実習の目的の一つに老年観を養うことがあり、従来であれば高齢者との関わりを通して、生きがいや生老病死など高齢者の理解を深めている。本調査では、老年看護学・学内実習における高齢者疑似体験の学習効果を明らかにした。

用語の定義

高齢者疑似体験：湘南医療大学の牛山が発案した高齢者疑似体験である。学生は高齢者体験スーツを着用し、80歳の仮想年齢になりきり「喪失体験」「獲得体験」「移動の体験」「病の体験」の4つの生活場面を体験する。

老年観：体験を通じて深めた高齢者のイメージである。

高齢者疑似体験の展開方法

80歳をイメージし“呼ばれたい名前”“住みたい所、住居形態”“職業・立場・役割”などを付箋紙に記入し「私はこんな80歳」のボードを作成する。グループ単位で高齢者疑似体験セットを装着した80歳、家族、看護師、介護士などそれぞれの役になりきり、体験カードに明示された指示通り4つの生活場面を体験する。場面終了ごとに体験カードの指示通り、喪失（付箋紙をボードから剥がす）、獲得（剥がした付箋紙を戻す）を行う。体験終了後、体験から学んだこと・考えたこと・感じたこと（以降、学び）についてグループ単位で意見交換を行う。

研究方法

令和2年度、老年看護学実習を履修した42名の学生の実習記録から、老年観について記

述された学びをコードとして抽出し、質的帰納的に分析した。コードを読み込み、類似と相違・差異に留意しながらサブカテゴリーを生成し、意味・内容ごとにまとめてカテゴリーを生成した。学生には研究の趣旨、実習記録を研究対象として分析することを説明し、研究参加は自由意思であること、成績や実習評価とは関係がないこと、個人は特定されないことなどを説明し同意を得た。

結果・考察

274記述の老年観が抽出され、否定的な老年観25、肯定的な老年観9、統合された老年観6、全40カテゴリーが生成された。否定的な老年観は【体が重く動かしにくい】【疲労感がつきまとう】など身体的な変化であり、この変化が【理解してもらえない悲しみ】【伝わらないもどかしさ】などの思いを生じさせ、【疎外感がある】【弱い立場になる】など社会的な孤立・孤独につながることを学んでいた。肯定的な老年観は【大切にしてもらえとうれしい】【温かい気持ちになる】などの思いであり、これらが【役割は心の支えになる】【楽しみは生きる力になる】など新たな役割の獲得や、自己実現のための時間が生きていく力になることを学んでいた。高齢者は【喪失体験が多い】が乗り越える強さがあるという特徴を捉えていた。また【その人なりにより良い生活をしている】【同じ年齢でも個性がある】という統合された老年観も学んでいた。高齢者疑似体験は、高齢者の身体的な変化のみならず心理・社会的な変化を理解し、等身大の高齢者をとらえられる学習方略であった。学内において老年観を養うという点で、学習効果の高い方法といえる。

口 演

キャンパスライフに対するアンケート結果（令和2年度）

稲 吉 政 岳・林 正 樹・渡 邊 千 春・桑原真裕子・竹 村 香・
新井奈津美・小池美津貴・武 分 祥 子・三 浦 弥 生

1. 目的

本学学生の学生生活に対する満足度、学生の知識・能力の変化、教育に対する満足度を調査することにより、教育内容や短期大学スタッフの在り方を見直し、今後の教育活動や業務活動の改善及び充実を図る一助とする。

2. 調査方法

- (1)アンケート調査
- (2)対象：本学に在学する全学生（悉皆調査）
- (3)調査期間：令和3年1月20日～1月24日
- (4)調査内容：質問項目は、対象者の属性、サポート体制、教育施設・設備、入学後の能力や知識の変化、学生生活等の満足度、教育への

満足度、学習時間

- (5)データ収集方法：オクレンジャーによるアンケート内容の送信と各自入力後の返信
- (6)分析方法：単純集計（オクレンジャー）

3. 結果

対象者数500人中回収数411（回収率82.2%）

(1)サポート体制

履修登録や単位取得について相談できる体制については、90.7%が整っていると回答した。

休校などの連絡が学生にわかりやすく情報提供されているかについては、75.3%が提供

されていると回答した。

学生便覧を活用しているかについては、53.3%が活用していると回答した。

からだやこころの健康について相談できる環境があるかについては、8割がその環境にあると回答しており、その理由は、健康センターの存在やアドバイザーの相談体制の充実であった。

職員の対応に満足しているかについては、財務・庶務課、広報課、教務課、学生課、地域連携センターおよび図書館の全てにおいて、満足、まあまあ満足と回答した者が9割以上であった。

(2)教育施設・設備

講義室、実習室の教育施設に満足している者は89.2%であった。

教室の空調の効きについては、十分と回答した者は7割であった。

キャンパス内の美化については、88.7%が行き届いていると回答した。

駐車場については、利用者の63.2%が利用しやすいと回答した。

(3)学生生活の満足度

入学した時点と比べた能力の変化につい

ては、一般教養で94.3%、専門知識で98.5%、知識が増えたと回答した。

本学に入学して満足しているかについては、88.7%が満足、まあまあ満足と答えたが、満足と回答した者は41.8%であった。

4. 考察

(1)サポート体制

履修、健康面のサポート体制は比較的整っている。学生便覧の活用の充実が求められる。

職員の対応については、満足を得ている。

(2)教育施設・設備

空調、駐車場の整備を今後も心掛ける必要がある。

(3)学生生活の満足度

専門知識、一般教養とも修得できたと感じている。本学に入学してよかったという満足度をより向上させていく必要がある。

5. まとめ

ここで得られた結果を各部署で共有し、連携の下で、学生の満足度を向上させていきたい。